

意見交換会の状況報告（安来エリア、広瀬エリア、伯太エリア）

6月16日(金)開催 安来エリア 参加者：19名

- ・交流センターを核とした地域づくりについて検討されたが、交流センターと学校は密接な関係がある。交流センターのソフト部分が重要である。
- ・子育て世代の参加が必要であり、世代間のコミュニケーションが必要である。
- ・説明された「生きる力」とは具体的に教えてもらいたい。
- ・学校がなくなれば地域は衰退するので、学校は残して欲しい。小規模特認校の考えはないのか。
- ・比田小が残った理由、赤屋小がなくなる理由を教えてもらいたい。
- ・人口の増減について、地域ごとの増減についても理由はあるのか。
- ・義務教育学校の考えはなくなったのか。
- ・交流センターとPTAの話し合いが必要であるが、現役の保護者がいない状況である。
- ・地域ごとの「こだわり」といった感覚がある。なくした方がスムーズだと感じる。
- ・荒島地区は地区での取り組みが活発であったが、世代の高齢化が進んでいる。
- ・失敗することが多いと思うが、成功事例しか話がされない。県内の失敗した事例は何があるのか。
- ・再編による子どもたちのメンタルが面が心配である。

6月17日(土) 伯太エリア 参加者：34名

- ・伯太中の今後について、どのようになるのか。
- ・比田小が残ることに違和感がある。
- ・安田地区は利便性もあり、遠方に通学することは心配であり残してほしい。安全に通学できる環境を整えてもらいたい。
- ・個別最適化の観点から、何人以上、何人以下の基準があるのか。
- ・再編と新設の意味は何か。地域には学校は必要だが学校がなくなっても元気がある地域がある。
- ・段階的な再編の方法はないのか。再編により不登校の子どもが増えるのではないのか。
- ・中学校の再編となった場合、二中、伯太中と広瀬中の生徒数は。
- ・安来市の人口ビジョンには地区ごとの人口増減がある。安田地区は一定の人口を保っている。また、医療環境も整っており、配慮してほしい。
- ・安田地区のアンケート調査の結果を伝える。

6月17日(土) 広瀬エリア 参加者：21名

- ・人口減は学校だけの問題ではない。官民一体と言いつつ、もの足りない。自分のこととして対応していかなければならない。
- ・自治会における若い方と年配の方の関係性があり、地域のあり方を考えていかなければならない。個々の地域をどうしていくのか。
- ・ふるさと教育について、再編後はどのようになるのか。大人を含めて、どのように人を育てるのか。地域のあり方について、今後どのように考えていくのか。
- ・学校運営協議会に地域の方が参加しないといけないと思う。
- ・ふるさと教育の一環として、西谷に夏休みなど来てもらえるとうれしい。
- ・地域の課題を考えていかなければならない。
- ・地域の魅力、交流センターの役割について考えなければならぬ。